

チーム名	政策提言ゼミ	大学名・学部	京都大学大学院公共政策教育部 公共政策専攻	ニューノーマルステージ
プラン名称	住みなよ香美町～Kami-Bluecationを移住のきっかけに～			
テーマ	ニューノーマル時代に対応する観光まちづくり			
リーダー名	村上浩之	メンバー名	嘉戸節・成瀬理央・早坂信政・村上浩之	
指導教職員名	羽生雄一郎			

① 私たちの考えるニューノーマルな観光

増え続ける地方からの転出者⇒地方での人口減少とそれに伴う行政サービス低下等の諸問題



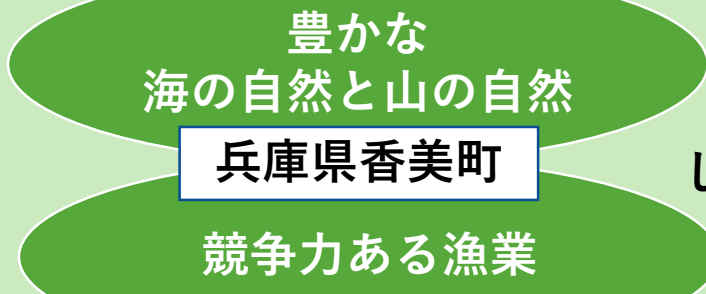
地方での人口減少の課題

香美町HP
「2020香美町統計データ」

地方の独自資源を活用した
日常にしたいくなる非日常価値の提供

地方移住者創出のきっかけとなる観光

② 兵庫県香美町の現状と課題



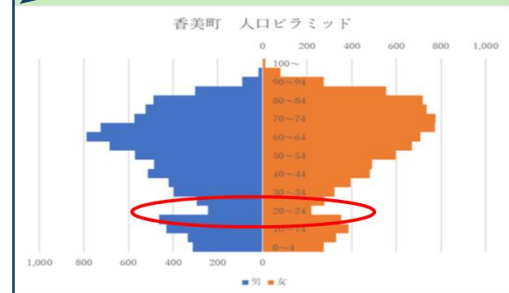
しかし…

香美町のもつこれらの魅力を十二分に生かし、
移住者増加のための観光政策を検討

・転出者数が転入者数を上回り続けており、総人口に占める若者の割合が少ない

・香美町の知名度は低く、Uターン者等の転入者を取り込めていない

転入者の大半がUターン者の現状。
香美町の人口は減り続け、
消滅可能性都市に…



香美町HP 「2020香美町統計データ」

③ 事業内容

ターゲット像

アクティブで自然好きであり、ワーケーションに興味のあるリモートワーク可能な層

イカ釣り漁業での幻想的な漁火



Workcation × Blue tourism ⇒ Kami-Bluecation

平日
ワーケーション

休日
ブルーツーリズム

都市部にはない豊かな自然に囲まれ、民宿にてワーケーションをしながら自由に過ごす
→生活の場としての香美町の魅力を発見！

但馬漁港と連携した3つのメニュー（定置網漁業見学・採貝藻漁体験・イカ釣り体験）から選択し、海産物を調理し食べる！
→香美町ならではの体験で印象付け

★新規性★

・ワーケーション×エコツーリズム
このかけあわせによって、地域の自然を生活の身近に感じ、エコツーリズムでのコト消費でさらにその地域の魅力を実感できる！

・住みたいと思ってもらうことを何より大事にした観光のありかた

ワンタイムで終わらない、地方移住者創出のための観光としてプランを作成！この目的意識を地方での観光のニューノーマルに。

④ PR手法

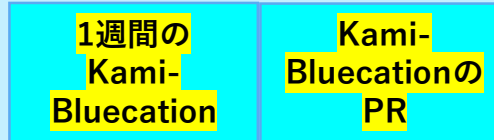
知名度の低さは香美町の大きな課題⇒幅広く・有効なPR手法へ
：PRのターゲットをワーケーションに対する関心層と検討層の2つの層に

関心層⇒インフルエンサー・旅行雑誌を通じて、受動的にKami-Bluecation!を知ってもらう

検討層⇒専用サイトと、ワーケーションを推進している旅行会社のサイトへの掲載で他のワーケーションプランの中から選んでもらいやすくする

⑤ 実施体制

香美町の民宿・但馬漁協・香美町の地元企業様と提携し、一体となってKami-Bluecationを推進



リピーターを創出し、移住者増加をねらう！

⑥ 事業効果

・3年間で約2万人の観光客が予想される
・事業1年目から収益が発生
・3年間だけで計300人以上の移住者が予想される(香美町人口2%増)

